

長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会  
第2回 利活用ワーキンググループ会議録

- 1 日時 令和6年9月24日(火)18時30分～20時
- 2 会場 太白区役所4階 第2・第3会議室
- 3 出席者  
委員:利大作委員、加藤隆委員、小島博仁委員、小林利一委員、田村光仙氏(佐藤秀彦委員の代理)、鈴木有希子委員、堀内祥弘委員(WG座長)、渡辺由之委員  
※ 佐藤博委員は欠席  
オブザーバー:柿沼敏万氏  
コーディネーター:氏家滉一氏  
太白区(事務局):長町地域活性化推進室長、長町地域活性化推進室 藤森主査、船水主査、木皿主任
- 4 次第・資料
  - 1 開会
  - 2 ワーキングの内容について
    - ・第1回利活用WGの振り返り【資料1】
    - ・第2回交通WGの報告【資料2】
    - ・基本計画(利活用面)の考え方(案)【資料3】
    - ・ゾーンコンセプトたたき台【資料4】
    - ・R6社会実験(案)の概要【資料5】
  - 3 意見交換
  - 4 閉会

## 1 開会

### 2 ワーキングの内容について

<事務局より資料1～3に基づき説明>

鈴木委員:

- 資料3の3ページ、子どもや親子連れが遊んで快適に1日を過ごせるようにということについて、子どもの頃に遊んだ記憶が、地域に愛着を生むと考えているので、「人情味・長町らしさ」「協働・愛着」にもチェックいただきたい。

小島委員:

- 鈴木委員のご指摘はその通りで、重複した表現となってもいいので反映すべき。

堀内座長:

- 続いて、資料4および5について説明いただく。

<事務局より資料4、5に基づき説明>

### 3 意見交換

堀内座長:

- 資料4のゾーンごとのコンセプトについて、本日の主題である。これはあくまでも、たたき台であり、委員の皆様からご意見を賜り、修正をいたしていきたい。

田村委員代理：

- ゾーンコンセプトを検討することは非常にいい。その中で、人情味・長町らしさをどう出していくか。例えば、笹谷街道や駅前の老舗などは長町らしさだろう。

堀内座長：

- 昨年ビジョンを作るときに、長町らしさについて皆さんにご意見をいただき、人情味ある長町を大事にしようとなった。どのような意見が出たか、コーディネーターからご発言いただけるか。

氏家氏：

- 商店街の皆さまのお客様に対する温かさのほか、裏道の蛸薬師や笹谷街道、十八夜観世音堂等に長町らしさがあるという話が出た。
- 社会実験のコンテンツでも、裏道をすべてやり切ることにはできないまでも、裏道に目配りしたような形に向けて調整している。

利委員：

- これまでの長い歴史で培われてきた人情味や長町らしさを大切にすることに加え、人情味を生かしたこれからの長町らしさを考えることで、将来像がより明確になるだろう。

小島委員：

- 地域資源として、歴史的な建造物や灯ろう流しなどのお祭り、地域を特徴づけている老舗や新しい店などがある。どうやってこれを表現するか。言葉にするとイメージが湧かないので、写真でたくさん入れていく、という方法がある。個人情報保護のため、掲載を希望しないケースもあるかもしれないが、そういう表現方法もいいのでは。
- もう1点、回遊性について、商店街エリア内の回遊性だけでなく、隣接しているあすと長町エリアとの回遊性も考えていくべき。地域のスポーツとなっている 89ERSとの連携を意識して、そこからも回遊性が生まれるということを今後の検討項目に掲載すべき。その意味で、魅力スポットにゼビオアリーナを追加していいのでは。

堀内座長：

- 以前長町商店街では、似顔絵のある街ということで、各店主の似顔絵を店先に掲示するという取り組みをし、店への入りやすさにつながった。そういうところにも長町らしさは出てくる。
- 各ゾーンの特色という点について、一丁目としてはどのような考えがあるか。

渡辺委員：

- 一丁目が一番パツとしない。店舗数は昔は一番多かったが、もう逆転している。ゾーン設定としては特段意見はないが、近くに学校も多く、やはり朝晩に若者の通行量が多いという話がある。また、市中心部に向かう自転車の交通量が、朝非常に多い。そういった、人流の多い時間帯に何か仕掛けをするというものがあつたらいい。

堀内座長：

- 駅前商店街として、駅前が「賑わいと活力」という案について、一丁目の「ふれあいと交流」と逆転してもいいのではないかとも思うが、いかがか。一丁目に活気があるといい。駅前はあえて賑わいとしなくても、人はやって来る。

渡辺委員：

- 今は実験段階であり、いろいろな考え方を検討し、地域にあったものとしていかなければならない。

氏家様：

- あすと長町エリアの子ども・親子連れを引き込むことも大事になる。

- 社会実験に関しては、その役割を1丁目ゾーンに持って行って、例えば今年の灯ろう流しのときにリップロードで子ども縁日をやったかなりのにぎわいだったという話もあり、そこを目指すことも。
- 800メートルを歩いてもらうため、緩急をつけたゾーニングをし、駅前から歩いて、飽きたり疲れたりしない形で、一丁目に誘いながらと思っていたが、本日のご意見も踏まえ考える。

堀内座長：

- 子どもというキーワードについて、何かあるか。

鈴木委員：

- このゾーニングを見ると、長町らしさを反映したゾーニングだなと思った。例えば、若い人たちのチャレンジができるのが一丁目だと思っていて、チャレンジの出店について、とてもいい。
- 一丁目で子どもの成長のための取組みを考えているが、何も無い空間で子どもが遊ぶだけでなく、歴史を感じることやふれあいの点を考えると、商店街の中で子どもたちに買い物させたいと思っている。商店街の中で、子どもを育てたい。

渡辺委員：

- 大きく捉えるとふれあいにもぎわいの1つで、くつろぎも含め全部イコールだろう。どの商店街にとっても、最終的には人が来て歩いてもらいたいというのが結論ではあるが、そこを全部ミックスしてしまうと本当にぼやけてしまうので、ゾーン分けはありだと思うが、その点は検討していかないといけない。

小林委員：

- ゾーニングはよい。基本的には、消費者を重視すべき。広域で消費者に訴えるのが難しいのであれば、ちょっとした場所からでいいので、具体策を実現していくと、長町らしさが出てくる。

加藤委員：

- エリア内でスーパーは一丁目しかないということから、一丁目は家族が行きやすいという雰囲気があり、通勤通学の朝夕と比べ、日中は子育て世帯も集まりやすい。さきほど、駅前ではなく一丁目のにぎわいという話もあったが、やはり駅前があるから一丁目が生きる。家族は一丁目ですーパーで買い物した後、ゆっくり休めるような空間に移動するなどの過ごし方も想定できる。
- 三丁目について、人情味と長町らしさが溢れる笹谷街道は、付近に小学校から大学まで各種学校があり、夕方には学生が多い。学生らしさの特徴づけも面白い。一丁目まで人が歩くためには、三丁目ですべきことをやるかがポイントになる。

堀内座長：

- 絵にするとイメージが出てくる。

利委員：

- 3ゾーンのイメージ案について、時間帯や曜日によって使う人・使い方が変わり、バリエーションがイメージできてくる。そうすると1つのゾーンに対して1つの絵というのが、難しくなってくる。まとめ方はいろいろあるだろうが、このワーキンググループでは、様々な使い方をどんどん描いていき、そのイメージしたものを実現できるようなハードの形がどのようなものか検討すれば、間違いはないだろう。

小島委員：

- 消費者という言葉もあったが、違う角度から見ると、消費以外に街に関与するという視点もある。例えば定禅寺通では、ジャズフェスなどさまざまな活動があり、市民が自分も何か参加できるというワクワク感が出てくる。長町商店街においても、そのような手作り感を醸し出していくことが大事。大規模商業施設と同じことをするのではなく、長町の良さをどう出していくか。

堀内座長：

- 各委員からの発言を聞き、事務局としてはいかがか。

事務局：

- 時間帯による変化や消費者目線等、様々ご意見賜ったところ、これらを踏まえてバリエーションを増やしながらいメージを固めていければと思うので、ますますご発言賜りたい。

(オブザーバー挙手)

柿沼氏：

- ゾーン分けも結構だが、スローガンを今後長く使っていくとなると、言葉をもう少し考えて、くつろぎや交流といった当たり前のものではなく、長町らしさを言い表す表現を、時間をかけて作ったらよいのでは。

堀内座長：

- コンセプトの部分として、事務局いかがか。

事務局：

- 名称も含めてのたたき台であり、そういったところも踏まえつつ、種々ご議論いただきたい。

利委員：

- ふれあいとか交流とか、その名称というよりは、実際にイメージ図の中で何を感じられるかが一番大事なのか。今の時点では、イメージをどんどん膨らませて、その通りに表現していくこととし、表現した後に、それを表すものとしてゾーンの名称をつけるかつけないかも含めて考えればよいのでは。

田村委員代理：

- 長町商店街では以前、前会長のもと商店街が一生懸命考えて、長町商店街まちづくり憲章を作った。これを参考に、我々がやってきたことをもう少し取り入れていただければありがたい。

渡辺委員：

- 長町商店街まちづくり憲章は、確かにやや長い文章ではあるが、それを新しい表現というか、今の時代にマッチした形で表現していくことも、これから大事になるのだろう。

小島委員：

- ゾーンコンセプトを具体化するときに、住民や商店街の方々も納得感があることが大事。今のゾーン分け案は、商店街の区分と一致しており、賛成。これを違う分け方にしてしまうと、違和感が出てくることもあり、あまりやるべきではない。
- 大きな目標として、歩いて楽しい街並みづくりという将来像はもう決まっているので、その具体化をどうするかということ。具体化したものを、誰に対して示していくのかということ意識しながら作っていけばいいのだろう。

鈴木委員：

- 思いつきではあるのだが、仙台弁を活用するのもいいのでは。やはり定禅寺通などのようなスタイリッシュな街というイメージよりは、長町は何かすごく土着な、温かみのあるみたいな街のイメージがあるので、少し方言的にやってみるのも面白いのでは。例えば、駅前はお迎えする雰囲気や街の顔の部分、三丁目は休んでいってくれ、一丁目は遊んでいってくれという感じなどを、仙台弁で表現するのもよいのでは。

堀内座長：

- 社会実験については、いかがか。

鈴木委員：

- 地域の会議で出た面白い意見としては、自転車を車道の真ん中に走らせるのかとか、長町駅前は通行止めにしたらどうなるのかとか、そういった話題は、今回の社会実験で若干入れる可能性はあるのか。

事務局：

- 今年度の社会実験については、ワーキンググループの議論を踏まえ、現状 4 車線を 2 車線にして、自転車通行帯や活用空間を創出し、可能な範囲で利活用をやっていくものとして進めさせていただく。いただいたご意見については、来年度以降の社会実験の中で考えていければと思う。

氏家氏：

- 補足すると、今年あまり多くの課題を一斉に解決しようとするのは困難なため、まず交通面の 2 車線化と、自転車を歩道から分離するところに集中する。コンテンツに関しては検討中だが、あまり過度なコンテンツというよりは、先ほどの三丁目のくつろぎ等のキーワードなり、ちょっとした賑わいなりは考えている。

小島委員：

- 要望として、長町駅前プラザについて。2010 年に設置し、あすと長町との交流といったところも含め情報発信していこうという当初の目的については、ほぼ達成していると思っている。このたび、新しいまちを作っていくということもあり、この機会に、長町駅前プラザを、設置当時の目的を超えてどのような活用があり得るかということを検討していいのではないか。昨年度の検討でも、例えば多様なプレーヤーの協働を生み出すたまり場の設置といったアイデアをビジョンにもまとめたところ、そういった部分の検討を社会実験において検証していくことが望ましいだろうが、次回以降の社会実験では検証いただきたい。

事務局：

- 長町駅前プラザの利用については、協定等に基づき運営管理を委託しており、これまで案内や情報提供についてなど、役割を果たしてきたと認識している。一方、現在あすと長町がここまで発展したような社会情勢や、長町駅前という好立地を鑑みると、プラザには、これまで以上に活用できるポテンシャルがあると認識している。今後、公園にの運営管理についての様々な制度の活用も含め考えており、種々ご相談させていただきたい。

氏家氏：

- 補足すると、昨今の社会実験は、道路活用やあり方といったものだけではなく、行政の民間に対する規制緩和のための実証実験という側面もある。その意味では長町駅前プラザと長町駅西口広場は非常に大事な場所であり、今年小さくても活用して、そして、来年もっと大きな活用と考えている。

柿沼氏：

- 長町プラザは、商店街の青年部で整理をして、私どもの要望で作っていただいた公設民営の施設。今は、プラザの運営委員会で仙台市から委託を受けて運営しており、今後、この会とも意見交換をしながら、どのように活用していただけるか、協議させていただければと思っている。

堀内座長：

- 本日も皆さまから様々なご意見を頂いた。この議論は、来月の検討会に報告させていただく。

## 4 閉会

(20 時終了)